

全体シナリオ

2015.1月改訂

1 回目シナリオ

目的：オピオイドの導入をスムーズに行うことができる

【医師に与えられた情報】

患者は〇〇さん 55 歳 大腸癌術後 肝転移 PS1 肝転移による内臓痛（右季肋部痛）に対してロキソプロフェン 3 錠 分 3 毎食後が処方されているが痛みが強くなってきたため、夜も眠れない。痛みは持続痛 NRS 6/10 夜は 8~9/10 でがん疼痛の悪化と考えて、モルヒネ硫酸塩徐放錠(10mg) 2 錠 分 2 (12 時間ごと)、プロクロルペラジン 3 錠 分 3 毎食後、酸化マグネシウム 1.5g 分 3 毎食後を処方しようと考えている

〈課題〉オピオイドを処方する旨を患者に説明してください

〈備考〉ロールプレイの中では症状の評価はしなくて良い

【患者に与えられた情報】

あなたは〇〇さん 55 歳です。大腸癌術後 肝転移 PS1 肝転移による内臓痛（右季肋部痛）に対してロキソプロフェン 3 錠 分 3 毎食後が処方されているが痛みが強くなってきたため、夜も眠れない状態である。

病状はきちんと説明されており、理解している。夜も眠れなくて仕事に支障が出ているので、少しでも痛みを良くしてもらいたいと考えている。

祖母ががんで亡くなったが、親戚からは「麻薬を使った後におかしなことを言って、すぐに亡くなった」と聞いたことがある。麻薬についてはきちんと説明を受けたことはなく、もし麻薬を使ったら、中毒になってやめられなくなったり、頭がぼーっとしておかしくなり仕事にも影響するのではないかと、早くから使うと後で効かなくなるのではないかと、いろいろと不安に思っている。

<代表的商品名>

ロキソプロフェン：ロキソニン®、ロブ®など

モルヒネ硫酸塩徐放錠：MS コンチン®など

プロクロルペラジン：ノバミン®など

2 回目シナリオ

目的：オピオイドの副作用を適切に説明することができる

【医師に与えられた情報】

患者は〇〇さん 60 歳 胃癌術後 肝転移 PS1 肝転移による内臓痛（右季肋部痛）に対してロキソプロフェン 3 錠 分 3 毎食後が処方されているが痛みが強くなってきたため、夜も眠れなかった。痛みは持続痛 NRS 6/10 夜は 8~9/10 でがん疼痛の悪化と考えられた。3 日前、外来でオピオイド（モルヒネ硫酸塩徐放錠(10mg) 2 錠 分 2 (12 時間ごと)）、プロクロルペラジン 3 錠 分 3 毎食後、酸化マグネシウム 1.5g 分 3 毎食後をロキソプロフェンに加えて処方され疼痛は改善したが嘔気が出現している。看護師からの情報では、患者さんはモルヒネ硫酸塩徐放錠服用後に症状が出現したので、モルヒネ硫酸塩徐放錠の副作用ではないか考えており、薬をやめたいと訴えている。

〈課題〉オピオイドの副作用と対処法について説明する

【患者に与えられた情報】

あなたは〇〇さん 60 歳です。胃癌術後 肝転移 PS1 肝転移による内臓痛（右季肋部痛）に対してロキソプロフェン 3 錠 分 3 毎食後が処方されていた。しかしながら鎮痛薬はほとんど効かず、逆に痛みが強くなり夜も眠れなくなった。3 日前の前回外来でオピオイド（モルヒネ硫酸塩徐放錠 (10mg) 2 錠 分 2 (12 時間ごと)）、プロクロルペラジン 3 錠 分 3 毎食後、酸化マグネシウム 1.5g 分 3 毎食後を処方され痛みは軽減したが、嘔気が出現している。食事の摂取が半分程度になってしまったため、このままだと徐々に体力がなくなるのではと心配になっており、薬をやめたいと思っている。

<代表的商品名>

ロキソプロフェン：ロキソニン®、ロブ®など

モルヒネ硫酸塩徐放錠：MS コンチン®など

プロクロルペラジン：ノバミン®など

3 回目シナリオ

目的：オピオイドに対する患者・家族の不安に適切に対応できる

【医師に与えられた情報】

患者は〇〇さん 65 歳 胆のう癌術後 肝転移 PS1 肝転移による内臓痛（右季肋部痛）に対してロキソプロフェン 3 錠 分 3 毎食後、モルヒネ硫酸塩徐放錠 10mg 2 錠 分 2（12 時間ごと）が処方されている。

2 週間前モルヒネ硫酸塩徐放錠処方直後に嘔気が見られたがオピオイドの副作用と対処法について説明を受け、安心して帰宅した。プロクロルペラジン 3 錠 分 3 毎食後を使用していたが、嘔気が消失したため、現在は内服していない。

痛みは落ち着いており、日常生活への影響はない。

本日〇〇さんは家族と一緒に来院し、診察は終了。化学療法のために外来化学療法室で点滴中である。家族が痛みの治療について相談がある、と面談を求めてきた。患者は日頃一人で通院しているため、あなたは家族とは治療前の病状説明以来会っていない。

〈課題〉付き添ってきた家族の心配を聞き、オピオイドに対する誤解を持っていないかを確認、もし誤解がある場合には、その誤解を解く

【患者家族役に与えられた情報】

あなたは〇〇さん（65 歳、胆のう癌術後肝転移）の家族として、外来に付き添ってきた。〇〇さん自身は痛みもなく、日常生活を送っているが、近所の方が〇〇さんと同じ種類の麻薬を出されて飲み始めてすぐに入院して亡くなったという話を先日聞いて心配になった。がんで亡くなった親戚の家族からも「痛み止めの麻薬は副作用も強いし、早くから使うと寿命が縮まるかも」「がんの末期に使うことが多いみたい」と話を聴き、余計に心配になって付き添ってきた。

今日は患者が点滴（化学療法）を受けている間に先生に会って、痛み止めの麻薬に、そのような副作用があるのかどうか説明を受けたいと思っている。患者は普段一人で通院しており、診察などについて余り細かい説明をあなたにはしていない。外来の先生と会うのは治療前の病状説明以来であるが、きちんと説明を聞きたいと思っている。

<代表的商品名>

ロキソプロフェン：ロキソニン®、ロブ®など

モルヒネ硫酸塩徐放錠：MS コンチン®など

プロクロルペラジン：ノバミン®など